

おいしさ、そして、いのちへ。

Eat Well, Live Well.

**AJINOMOTO®**

# 第136期 株主通信

中間

2013年4月1日～2013年9月30日

## 社長インタビュー

～グループ理念の実現に向けて～

栄養改善に向けた取り組み …… P1

## 特集

「うま味」は世界へ

第2回 ブラジルにおける事業展開 … P9



味の素株式会社



株主の皆様には、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

取締役社長 最高経営責任者

伊藤 雅俊

## ～グループ理念の 実現に向けて～ 栄養改善に向けた取り組み

### 味の素グループ理念

私たちは地球的な視野にたち、  
“食”と“健康”そして、“いのち”のために働き、  
明日のよりよい生活に貢献します。

**Q** グループ理念実現のため、「21世紀の人類社会の課題」である、「地球持続性」「食資源」「健康な生活」を解決することが企業責任であると位置づけていますが、「健康な生活」についてどのような取り組みを進めていますか？

**伊藤** 人が健やかに暮らすためには、「食」は大きな役割を果たすと考えています。世界では、飢餓や肥満など栄養状態に問題のある人が多数います。また、高齢化が進むにつれて、高齢になっても健康で自立した生活を送りたいというニーズが高まっています。世界中の人々が適切な栄養を摂り、健康に暮らせるように、事業活動はもちろん社会貢献活動においても、様々なかたちで取り組んでいます。

## Q | 具体的には、 どのようなことを進めていますか？

**伊藤** 食生活が乱れがちな東日本大震災被災地域の仮設住宅入居者の方を対象として、健康・栄養面の支援を目的とした「健康・栄養セミナー」を2011年10月以降、継続的に実施しています。これまでに合計513回（2013年10月末時点）実施しており、多くの方にご参加いただいています。

また、創業以来積み重ねてきた、食品加工やアミノ酸栄養にかかわる技術・ノウハウを活かし、機能性食品の開発普及を通じて、栄養改善を目指しています。この度、ロコモティブシンドローム<sup>\*1</sup>の一つであるサルコペニア<sup>\*2</sup>の効率的な対策手段となるロイシン高配合必須アミノ酸混合物「Amino L40」を開発しました。「Amino L40」の摂取と運動により、高齢

者の筋肉量の減少を改善することで、介護や寝たきりの予防に活かすことができると考えています。

### ※1 ロコモティブシンドローム

身体を自由に動かす運動器（骨・関節・筋肉）の障害で、移動能力の低下をきたして要介護になる危険の高い状態です。

### ※2 サルコペニア

ロコモティブシンドロームの一つであり、加齢により筋肉量が減少し筋力が低下することをいい、高齢者の身体運動能力を損ない、日常生活活動の低下や要介護の原因となるものです。

## Q | 海外では、いかがですか？

**伊藤** 1999年から実施している味の素「食と健康」国際協力ネットワーク（AIN）プログラムでは、NGO／NPO等とともに、学校給食システムの構築や栄養・健康啓蒙活動等、各国の事情に応じた栄養改善活動の支援を実施しています。

それに加えて、アフリカのガーナ共和国では、様々なパートナー（ガーナ保健省やJICA（独）国際協力機構）、USAID（米国国際開発庁）等の政府機関、ガーナ大学、国際NGO等）との協力のもと、離乳食の栄養バランスを改善・強化するサプリメントの開発・製造・販売を通じて、離乳期の子供の栄養改善への貢献を目指すという「ガーナ栄養改善プロジェクト」を進めています。これは、開発途上国の深刻な栄養不足の問題を持続可能なビジネスとして解決することを目指す新たな取り組みです。

### ヒトのカラダを構成する成分

脂質・糖質  
その他 約20%

タンパク質 約**20%**

水分 約60%

- タンパク質は20種類のアミノ酸より構成される  
⇒皮ふ、筋肉、骨、臓器、血液やホルモンなどを構成

**Q** 具体的には、どのようなものですか？

**伊藤** ガーナの伝統的な離乳食である「<sup>ココ</sup>koko」は、発酵コーンでつくるお粥ですが、タンパク質、微量栄養素が不足していて、栄養バランスが悪く、子供の成長が遅れる一因となっていました。生後6~24ヶ月にしっかりと栄養を摂ることがその後の成長に大きく影響することから、「<sup>ココ</sup>koko」の調理時に加えることで、これら不足する栄養素を補えるアミノ酸入りの栄養サプリメント「<sup>ココ</sup>koko <sup>プラス</sup>Plus」を開発しました。現在、現地生産が始まり、1袋約11円でテスト販売を実施していますが、物流インフラが整っていないガーナでは、商品を隅々まで届けることができないので、都市部における伝統的な流通ルートに加え、北部では女性の自立支援プログラムを実施しているNGOと協力し、各村の女性販売員に商品を販売してもらう流通モデルの構築を進めています。



アミノ酸入りの栄養サプリメント  
「<sup>ココ</sup>koko <sup>プラス</sup>Plus」



**Q** 今後、どうなるのですか？

**伊藤** まずは、2014年度中にもガーナでの本格発売を目指していますが、ガーナの周辺国でも、同じような栄養不足の課題を抱えているので、なるべく早期に周辺国にも展開するつもりです。また、開発途上国の栄養改善に対するニーズは大変大きく、このような食品の潜在市場規模は1兆円を超えるという推計もあり、このプロジェクトで得られた経験、ノウハウは今後、世界各地でこのような持続可能なビジネスを推進する際には、非常に役に立つものとなります。

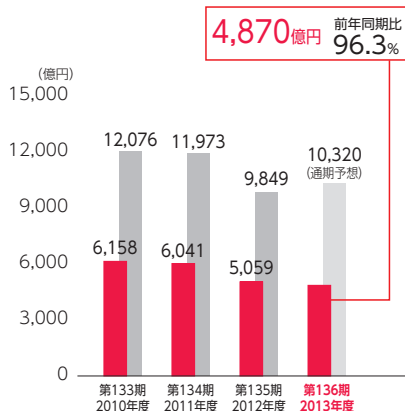
# 財務ハイライト

## ◆主要連結財務データ

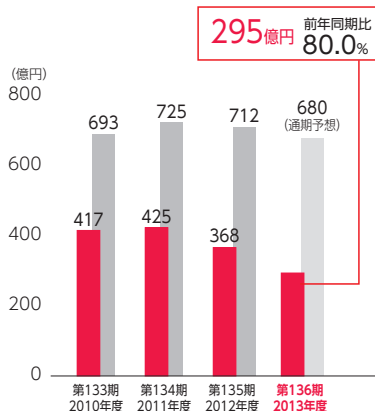
	第133期 2010年度	第134期 2011年度	第135期 2012年度	第136期(当期)2Q 2013年度 第2四半期連結累計期間
売上高	12,076 億円	11,973 億円	9,849 億円	4,870 億円
営業利益	693 億円	725 億円	712 億円	295 億円
経常利益	704 億円	759 億円	771 億円	328 億円
当期・四半期純利益	304 億円	417 億円	483 億円	221 億円
1株当たり当期・四半期純利益	43.56 円	61.27 円	74.35 円	35.79 円
総資産	10,774 億円	10,970 億円	10,917 億円	10,691 億円
純資産	6,502 億円	6,501 億円	6,917 億円	6,479 億円
1株当たり純資産	871.61 円	894.58 円	1,004.38 円	968.45 円
年間配当・中間配当	16 円	16 円	18 円	10 円

## ◆連結財務ハイライト ■ 第2四半期 ■ 通期

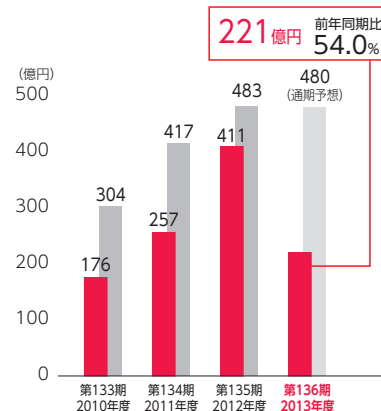
### ● 売上高



### ● 営業利益



### ● 四半期(当期)純利益



\*予想数値は、11月6日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

\*第135期まで、当社ではコーヒー・油脂事業等の総発売元取引について、売上高および売上原価を総額で計上しておりましたが、第136期から売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更しており、上記の第135期の売上高は、新しい会計方針に基づいて算出し直しております。

## 国内食品

売上高

**1,611** 億円

(599億円 減)  
(前年同期比 72.9%)



営業利益

**109** 億円

(63億円 減)  
(前年同期比 63.4%)



調味料・加工食品は、家庭用商品の販売が増加したものの、ギフト製品の販売が減少し、減収となりました。冷凍食品は、国内では堅調に推移し、北米を中心とした海外における販売も増加し増収となりました。全体としては、カルピス株式会社製品の販売が前第3四半期連結会計期間からなくなった影響を受け、減収となりました。

原材料等の仕入価格上昇に伴うコスト増や広告費の増加等により、減益となりました。



## 海外食品

売上高

**1,445** 億円

(296億円 増)  
(前年同期比 125.8%)



営業利益

**128** 億円

(26億円 増)  
(前年同期比 125.6%)



コンシューマーフーズは、為替の影響に加え、アジアにおけるうま味調味料「味の素<sup>®</sup>」や風味調味料の販売が好調で、大幅な増収となりました。加工用うま味調味料は、競合会社の増産に伴って海外における食品加工業向け「味の素<sup>®</sup>」および核酸の市場価格の低下はあったものの、販売数量の増加に加え、為替の影響により、増収となりました。

コンシューマーフーズの貢献と為替の影響により、増益となりました。



## バイオ・ファイン

売上高

**1,118** 億円

(148億円 増)  
(前年同期比 115.4%)



営業利益

**39** 億円

(33億円 減)  
(前年同期比 54.0%)



飼料用アミノ酸は、リジンの販売単価が下落し、販売数量が減少したものの、全体としては為替の影響もあり、増収となりました。医薬用・食品用アミノ酸および化成品は、販売が好調に推移し、製薬カスタムサービスでは当第1四半期連結会計期間から連結子会社となった味の素アルテア社の売上げが加わり、全体としても増収となりました。

飼料用アミノ酸の販売価格の下落の影響を受けて、大幅な減益となりました。



## 医薬

売上高

**278** 億円

(80億円 減)  
(前年同期比 77.7%)



営業利益

**15** 億円

(2億円 減)  
(前年同期比 85.9%)



自社販売品は、当第2四半期連結会計期間から持分法適用会社であるエイワイファーマ株式会社に輸液・透析事業を移管したことで、当該事業の製品の売上げがなくなり、大幅な減収となりました。提携販売品は、競合品の影響により、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類や骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドロネート類の販売が減少し、大幅な減収となりました。

コスト削減等は進めたものの、提携販売品の減収の影響を受け、減益となりました。



売上高

**416** 億円

(46億円 増)  
(前年同期比 112.4%)



営業利益

**2** 億円

(0.7億円 減)  
(前年同期比 73.7%)



その他

医療用食品が、医薬セグメントからその他セグメントに変更されたこと等により、増収となりました。

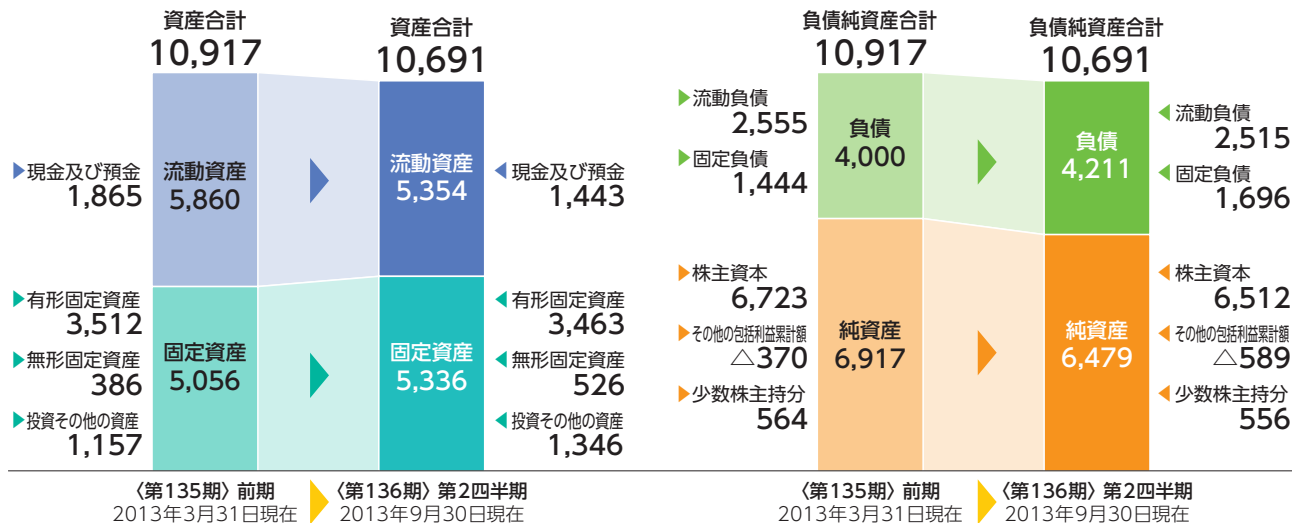
健康ケア事業は増益となったものの、物流事業の減益により、減益となりました。

\*第135期まで、当社ではコーヒー・油脂事業等の総発売元取引について、売上高および売上原価を総額で計上しておりましたが、第136期から売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更しており、前年同期との比較は、新しい会計方針に基づいて算出し直した売上高と行っております。

# 連結決算概要

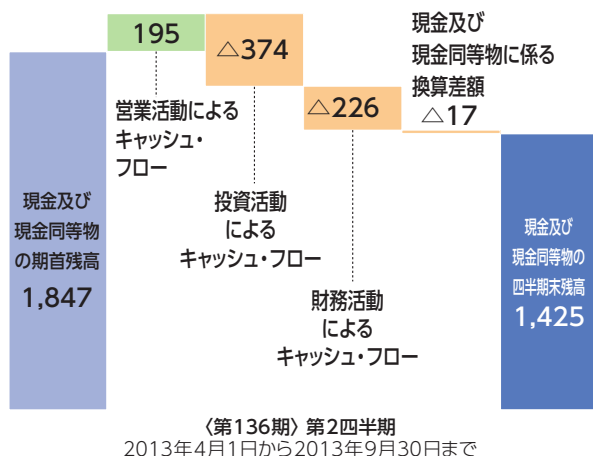
## ◆連結貸借対照表の概要 (単位: 億円)

(注)△印は、マイナスを示しています。



## ◆連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 億円)

(注)△印は、マイナスを示しています。



### ● 営業活動によるキャッシュ・フロー

195億円の収入(前年同期は319億円の収入)となりました。税金等調整前四半期純利益が345億円、減価償却費が225億円であった一方、たな卸資産等の運転資本が支出であったこと、2012年10月にカルピス株式会社の株式を譲渡したこと等により法人税等の支払額が244億円であったこと等によるものです。

### ● 投資活動によるキャッシュ・フロー

アルテア社の株式取得による支出および有形固定資産の取得等により374億円の支出(前年同期は304億円の支出)となりました。

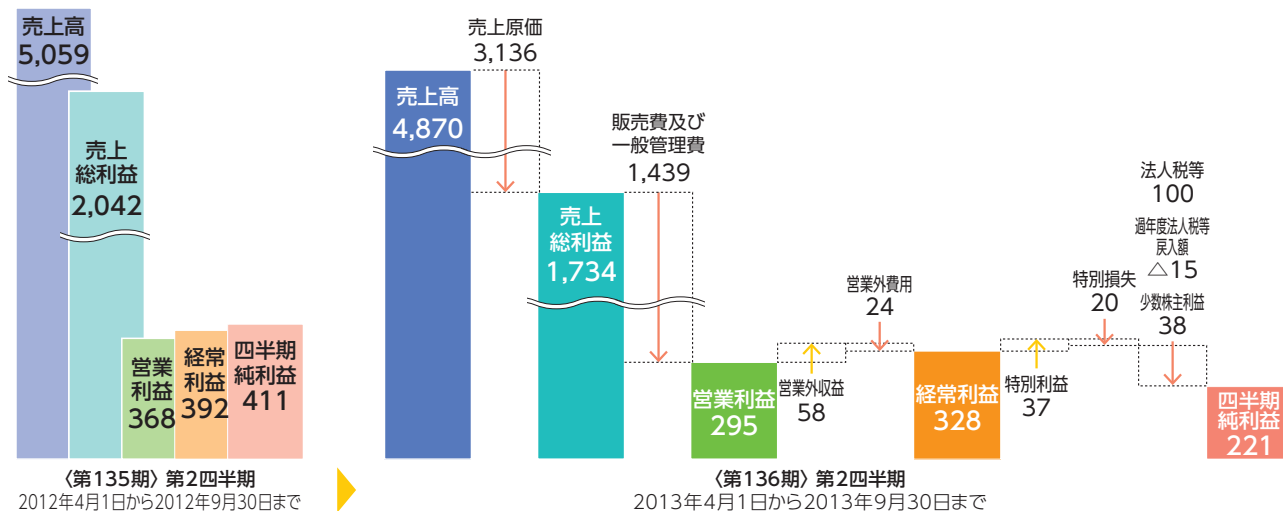
### ● 財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得による支出等により226億円の支出(前年同期は543億円の支出)となりました。



## ◆ 連結損益計算書の概要 (単位: 億円)

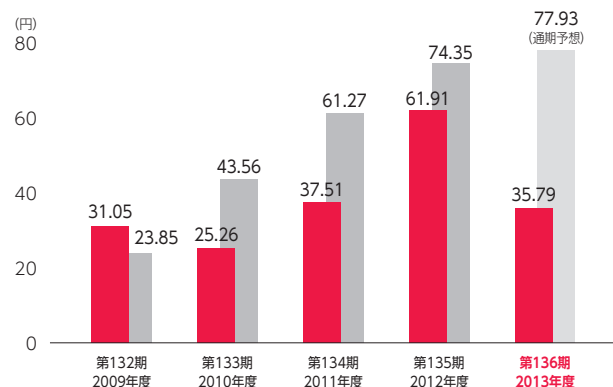
(注) △印は、マイナスを示しています。



\*第135期まで、当社ではコーヒー・油脂事業等の総発売元取引について、売上高および売上原価を総額で計上しておりましたが、第136期から売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更しており、上記の第135期の売上高は、新しい会計方針に基づいて算出し直しております。

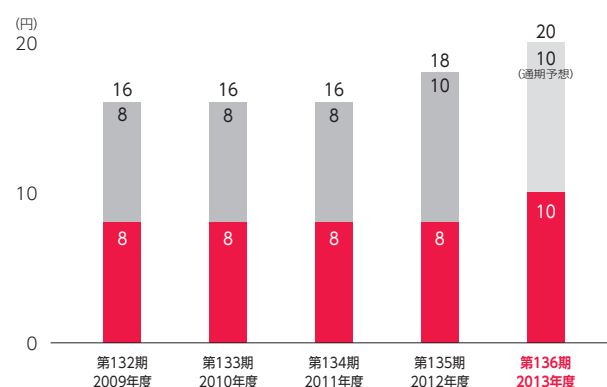
## ◆ 1株当たり四半期(当期)純利益

■ 第2四半期 ■ 通期



## ◆ 配当

■ 第2四半期 ■ 通期



\*予想数値は、11月6日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

# 「うま味」は世界へ

味の素グループ、世界への挑戦



## 第2回 ● ブラジルにおける事業展開

味の素(株)は、1954年にサンパウロに駐在員事務所を開設、その2年後の1956年に法人を設立し、ブラジルに本格的に進出しました。当初は、日本から輸入したうま味調味料「味の素®」を小袋に再包装して、日系人を中心に販売し、市場開拓を行いました。その後、アミノ酸類の輸入販売、即席麺事業に参入し、風味調味料「Sazón®」、カップスープ「VONÓ®」等消費者向けの商品を順次発売し、事業を拡大してきました。また、1978年には食品加工業向け「味の素®」の生産を開始し、1997年と2006年には飼料用アミノ酸の工場を立ち上げたことで、味の素グループの国際競争力強化に大きく貢献してきました。

現在、ブラジルには、6つの工場があり、飼料用アミノ酸、調味料、粉末ジュース等多岐にわたる分野の製品の製造販売を行っています。国際的なスポーツイベントの開催国として、今後ますますその動向が注目されるブラジルにおいて、味の素グループの製造販売の拠点として、今後も重要な役割を担っていきます。



シュラスコ



ムケッカ



フェジョアーダ



首都	ブラジリア
面積	851万2,000km <sup>2</sup>
人口	19,840万人 (2012年)
通貨	レアル
名目GDP	22,526億ドル (2012年)

## 今後の展開について

ブラジル味の素社の主力商品の一つであるTEMPERÖ\* [Sazon®] は、肉、魚、野菜等を使った料理向けに、スパイス等の香辛料、うま味調味料、塩等がブレンドされた風味調味料で、日本の「ほんだし®」やコンソメに相当する商品です。1988年の発売以来、そのおいしさや手軽さ、利便性がたくさんのお客様に受け入れられたことで、広くスープ、煮込み料理、炒め物等の家庭料理に使われるようになり、順調に売上げを拡大してきました。この度、約20億円を投じて「Sazon®」



TEMPERÖ [Sazon®]  
 ※TEMPERÖとは、ポルトガル語で「調味料」という意味です。

の生産設備を増強し、2013年8月に開所式を行いました。今回の増強により、約40%の増産が見込め、今後、ブラジルでの更なる拡売、そしてアルゼンチンやチリ等の南米諸国への開拓を推進し、事業の深耕と拡大を目指していきます。



ブラジル味の素社リメイラ工場の外観



設備増強を記念するプレートの除幕式  
 右から2番目がハジシ リメイラ市長  
 右から3番目がサンパウロ州投資競争力振興庁 アルメイダ長官  
 左から3番目がブラジル味の素社 西井社長

## COLUMN 粉末ジュース「Refresco MID®」

ブラジルでは、食事の場面で粉末フルーツジュースがよく飲まれており、そのニーズに合わせて2000年に味の素グループ初の粉末ジュースとして発売した商品が「Refresco MID®」です。水に加えて混ぜるだけで、家庭で手軽においしいフルーツジュースを楽しめます。現在では17品種が発売され、発売当初から順調に売上げを拡大してきました。今後はターゲットを子供にも広げたマーケティング活動を展開し、更なる売上げ拡大を目指します。



粉末ジュース  
 「Refresco MID®」

# 会社概要 (2013年9月30日現在)

## 会社の概要

商号 味の素株式会社  
本社 〒104-8315  
東京都中央区京橋一丁目15番1号  
創業年月日 1909年(明治42年) 5月20日  
設立年月日 1925年(大正14年) 12月17日  
資本金 79,863,797,685円  
ホームページアドレス <http://www.ajinomoto.com/>

## 株式の状況

発行可能株式総数 1,000,000,000株  
発行済株式の総数 614,115,654株  
単元株式数 1,000株  
株主数 62,671名

## 取締役・監査役

*1 取締役会長		山口 範 雄
*1 取締役社長	最高経営責任者	伊藤 雅 俊
*1 取締役	副社長執行役員	國本 裕
取締役	専務執行役員	岩本 保
取締役	専務執行役員	五十嵐 弘 司
取締役	常務執行役員	大野 弘 道
取締役	常務執行役員	高藤 悦 弘
取締役	常務執行役員	品田 英 明

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同連絡先 証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

上場証券取引所 東京証券取引所  
公告の方法 東京都において発行する日本経済新聞に掲載する方法による

配当支払株主確定日 3月31日(期末配当)  
9月30日(中間配当)

証券コード番号 2802

取締役	常務執行役員	木村 毅
取締役	常務執行役員	西井 孝 明
取締役	常務執行役員	栃尾 雅 也
取締役	常務執行役員	福士 博 司
取締役		長 町 隆
*2 取締役		橘・フクシマ・咲江
*2 取締役		齋藤 泰 雄

常勤監査役	赤坂 寧
常勤監査役	田中 静 夫
*3 監査役	佐藤 りえ子
*3 監査役	塚原 雅 人
*3 監査役	藤村 潔

\*1 代表取締役 \*2 社外取締役 \*3 社外監査役

## 株主優待のご案内

**優待の内容** 味の素グループ商品の詰め合わせセット  
(市価3,000円相当)

**対象となる株主様** 毎年3月31日現在の株主名簿に記録されて  
いる1,000株以上ご所有の株主様

**発送時期** 6月末～7月初旬を予定しております。

**配送に関するお問い合わせ先** (株)味の素コミュニケーションズ  
TEL 0120-271-456 (フリーダイヤル)

## 味の素株式会社

〒104-8315 東京都中央区京橋1-15-1  
<http://www.ajinomoto.com/>

この冊子に関するお問い合わせ先 TEL 03-5250-8245(法務部)



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。